

## DEIシリーズ その1

## 東北本部男女共同参画推進委員会のDEI活動と今後の展望

Activities and future prospects for DEI – Tohoku Regional Headquarters Gender Equality Committee

内田 隆広  
UCHIHA Takahiro

## 1 はじめに

日本技術士会東北本部男女共同参画推進委員会は、女性技術士の増加と男女共同参画の推進を目的に、会員同士の交流や情報発信、外部との連携を進めている。近年は「異業種交流」や「コミュニケーション」をテーマに掲げ、従来の枠にとられない活動を展開してきた。活動を通じて、男女の働き方の違いやライフステージごとの課題を見つめ直し、多様な価値観を受け入れることの重要性を強く感じている。

本稿では、当委員会の活動方針と概要、具体的な取り組み、そして今後の課題について報告する。

## 2 活動方針と概要

## 2.1 活動方針

## (1) 女性技術士及び女性会員増加に向けた活動

女性技術士や女性会員の支援、情報提供、ネットワーク形成を進め、次世代の技術者育成を目指している。

## (2) 男女共同参画推進の諸行事の企画・運営・支援活動

講演会、見学会、交流会、フォーラムなどを通じ、多様な立場の会員が参加できる場を提供している。家庭と仕事の両立、キャリア形成、リーダーシップ向上などをテーマに活動している。

## 2.2 委員会概要

女性技術士はここ20年間で増加しているものの、いまだ少数であることに変わりはない。こうした状況を踏まえ、当委員会は2017年に発足した。

以来、女性技術士増加の支援や男女共同参画の推進を目的に、講演会、勉強会、見学会、交流会、せんだいフォーラムへの参加、技術士学習

ノート東北版の作成などを実施している。

委員構成は建設、化学、環境、電気、農業など多分野にわたり、それぞれの専門性を活かした活動を展開している。

## 3 具体的な取り組み

## 3.1 異業種交流イベント (2024年1月)

技術者の世界では依然として女性は少数である一方、小中学校の教員や看護師は女性が多数を占めている。この特性に着目し、ゲストとして学校教員2名・看護師2名を招いた座談会を開催した。参加者は22名で、技術士や一般会員を含む各班5名のグループにゲスト1名を加えて、2回のフリーディスカッションを実施した(写真1)。



写真1 異業種交流イベント

## (1) 討議内容と気づき

- ライフステージに応じた柔軟な働き方  
看護師は常勤・パート・嘱託の切り替えが容易で、子育てや介護に応じた働き方を選択可能。
- キャリアアップの明確さ  
学校教員は目標や評価基準が明文化され、個人が自ら計画を立てやすい。
- 業務引き継ぎの体制とコミュニケーション  
普段からの情報共有や引き継ぎが円滑な職場運営に不可欠。

- ・担い手不足への意識

子どもや学生に職業体験や情報提供を行うなど、将来の担い手育成が重要。

## (2) 参加者の声

参加者からは「異業種の話聞くことで、自分の職場環境を客観視できた」「看護師は制度が整っており、参考になる」「ライフステージに応じた柔軟な働き方の重要性を実感した」などの声があった。

座談会を通じて、技術士としてのキャリア形成や働き方を考える貴重な機会となったほか、技術者について異業種の方に知ってもらった機会にもなった。

## 3.2 コミュニケーション意見交換会 (2024年11月)

コミュニケーション力の向上を目的に、「オープンダイアログ」の手法を用いた意見交換会を実施した(写真2)。これは1980年代にフィンランドで始まった「対話実践」の手法で、医療や教育、職場、家庭での活用が広がっているものである。参加者は以下の基本原則に従い3人一組で順番に発言と傾聴を行った。



写真2 コミュニケーション意見交換会

### (1) 基本原則

- ・他者を尊重し、話を遮らない
- ・結論を急がず、対話を重視
- ・聞き手は話し手の傍で感想を述べる

### (2) 気づきと成果

参加者からは「強い発言に引きずられず、丁寧に傾聴できた」「自分の考えや感情を振り返る良い機会になった」「会社や家庭でのコミュニケーションにも応用できる」「異なる世代や他社の考

え方に触れ、新たな視点が得られた」などの声があり、さまざまな気づきや成果につながった。

## 4 今後の展望(課題と予定)

これまでの活動を通じて、男女共同参画を推進する上でコミュニケーション力が極めて重要であることを再認識した。また、関係者間での信頼関係や相互理解を深めることで、より良い職場環境づくりへの意欲も高まった。

今後は以下のような活動を展開していきたい。

### (1) 委員の増員

発足当初からメンバーは大きく変わっていないため、これまで以上に若手や女性技術者を増員し、新たな意見を取り入れていきたいと考えている。

### (2) 横の連携

DEI委員会や各地域本部の男女共同参画推進委員会との交流はほぼないため、横のつながりを強くして情報共有やイベントの共催等を行いたいと考えている。

### (3) 2025年度の活動

当委員会の委員は主に建設コンサルタントに所属している。そのため、意見が偏ることがあると感じており、多様な意見を取り入れたいと考えていた。よって、2025年度は多数の会社からの意見や知見を得ることを目的に、企業研究としてアンケート調査の実施を計画した。調査結果は次年度以降の活動計画に反映することを予定している。

## DEI委員会より

女性比率が低い技術者の世界とは対照的な存在である学校の先生や看護師の方々との座談会を企画された発想力と行動力に感服しました。女性技術士の存在を知ってもらった機会にもなったようで、一石二鳥の効果があったことが伝わりました。

内田 隆広 (うちた たかひろ)  
技術士(上下水道部門)

(株)復建技術コンサルタント  
水工技術部  
e-mail: uchita@sendai.fgc.co.jp

